

SHIRAKOBATO

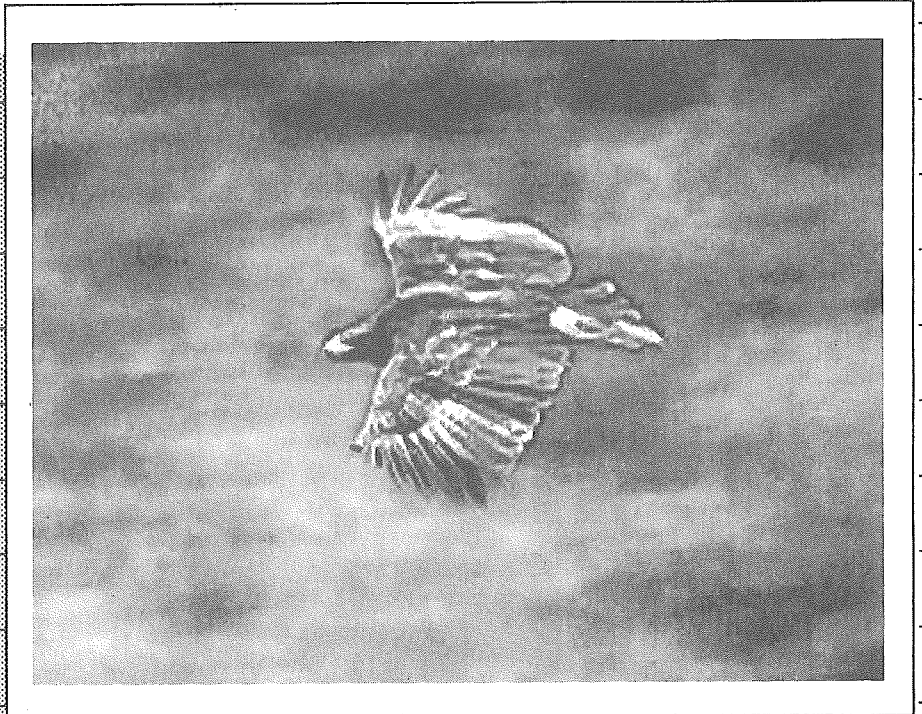
しらこぼと



1998. 3

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 167

日本野鳥の会 埼玉県支部

フィールド図鑑を使いこなそう！

小荷田行男（浦和市）

野外において、実物を見ながら動植物の識別を行うとき使用する図鑑をフィールド図鑑と呼びます。ここではフィールド図鑑の使い方とその限界、そして最近注目のフィールド図鑑について述べます。

1. フィールド図鑑の掲載内容を確認しよう！

新しくフィールド図鑑を入手した時、その図鑑の掲載内容を確認し、フィールドで間違いないく使うため次の事を行なって下さい。

①斜め読みでもよいので、どこに何が書いてあるか、図鑑の端から端まで一通り目を通しましょう。

②その図鑑のカバーする地域を読み取りましょう。例えば北海道専用、本州四国九州のみ、信州のみ、沖縄専用など、普通は「まえばき」などに書かれています。

③対象とする生物の範囲を読み取りましょう。例えばワシ・タカ専用の鳥類図鑑、蝶類のみの昆虫図鑑、ラン科のみの植物図鑑など。特に植物図鑑の場合、草花などの草本のみか、樹などの木本のみか、そのいずれも含んでいるかの注意が必要です。

④特に花の図鑑の場合、その図鑑のカバーする季節を読み取りましょう。例えば「秋の草花」図鑑など。

⑤目的の種へたどり着く方法が、そのフィールド図鑑ではどのような方法によっているのか、以下に述べる中から探して下さい。

・検索表が無く、動物ならカモ科、ネコ科など、植物ならバラ科、イネ科など生物分類の順序に従って並んでいる。



フィールド図鑑は定例探鳥会でも販売

・検索表が付き、その後に科、そしてその下位分類項目である属の順に並んでいる。

・森林、草原、湿原、海岸などの生育生息環境別に並んでいる。

・花を付ける植物の場合、花の形又は花の色で並んでいる。

・その他

2. 自分流のフィールド図鑑に変えよう！

次のような書き込みを行なって自分流の使い易いフィールド図鑑にしましょう。

(1) 分布域

あなたが日常、自然観察しているフィールドと、図鑑に示されている分布域を比較して、生育又は生息している生物とその可能性の無い生物に印をつけて区別しましょう。例えばキツツキの一種ヤマゲラは北海道では生息していますが本州では生息していません。フィールドが関東の場合、×印などを付けましょう。この印によりフィールドにおける識別時間が短くなります。

(2) 外来種と在来種

近年はセイヨウタンポポのような外来種があちらこちらに生育又は生息しています。外来種の分布は、例えばカントウタンポポの様な在来種と異なり、コスモポリタンの性格を示し、環境に対する依存性が少なくなっています。このため外来種はそれを意味するマークを図鑑に入れておくとう便利です。

(3) 有害生物

山菜やきのこ、魚や貝のように食物として採集する場合、形態や色に似かよった種が多くあるため、有毒種はⓈマークなどを付け区別をはっきりさせましょう。

またヤマウルシ、ツタウルシなどウルシの仲間など特に体質により危険な生物についてもⓈマークを付けましょう。

(4) 識別ポイント

識別に慣れてきたら、あなた独自の識別ポイントを記入しましょう。

3. フィールド図鑑の限界

(1) 植物

日本国内の高等植物だけで約5,300種あります。鳥が約550種であるのに比べて10倍もあるため、全て掲載する事は不可能です。大きな図鑑であっても全てが書かれているわけではなく、携帯用のフィールド図鑑では比較的良好に見られる種に限られています。

(2) 昆虫

昆虫は既に知られている種が約29,000種、推定で100,000種が国内に生息していると考えられています。このためフィールド図鑑のみならず、全種が分類上記述されているわけではありません。このため昆虫は知られている種の方が少ないと考えて下さい。

(3) 種の分類

植物や動物の分類や生態の研究は、日進月歩で動いています。春先、山地の雑木林で見られるフクジュソウは、以前は一種でした。今はがくと花びらの大きさによりフクジュソウとキタミフクジュソウの二種に分かれています。このように種の考え方は大きく分類したり、細かく分類したり、時代によって波があり常に動いています。このため図鑑により、分類が変わっている場合があります。

(4) 野生化

栽培植物や家畜などが人間の管理から離れ野生化しているケースがあります。樹木ではカラマツ、動物ではミンクやヤギ、植物では多くの園芸種や作物などの例もあります。これらはフィールド図鑑に示されていません。

4. 最近注目のフィールド図鑑

(1) 植物

植物を専門としていない人を対象に、花の色や花の形で引く全国版の入門用フィールド図鑑が出版されました。花の色で引き植物の全体写真と花の拡大写真が掲載されています。「春」以外に「夏」「秋」も出版されています。

平野隆久 1996 野草の花図鑑「春」 Scholar Field Guide Series 1 スコラ 東京

キク型やタンポポ型など、花の形で引く次の本があり「春の花」から「秋の花」まで3冊構成となっています。

内藤俊彦 1995 フィールド検索図鑑 春の花 北隆館 東京

これらの季節別の場合、8月下旬の様な季節の変わり目は「夏」だけでなく「秋」も携帯する必要があります。

植物は細かい形の差によって種が異なります。この点を詳しく写真で約2,200種について解説した次は、重いけれど役立ちます。

林弥栄、平野隆久 1989 野に咲く花 山溪ハンディ図鑑1 山と溪谷社 東京
永田芳男、平野隆久 1996 山に咲く花 山溪ハンディ図鑑2 山と溪谷社 東京

(2) 鳥

森林の鳥について内外の生態学の成果、特に繁殖行動について解説した次は、識別中心の従来の殻を破ったものです。

ビッキオ 1997 鳥のおもしろ私生活—森の野鳥観察図鑑— 主婦と生活社 東京

フィールドで拾った羽の識別に便利です。

笹川昭雄 1996 実物大識別図鑑 野鳥の羽根 世界文化社 東京

(3) 昆虫

農家での受粉作業効率化のためセイヨウオオマルハナバチが導入され、その帰化が問題となっています。一つのマルハナバチが絶滅すれば、それによって受粉されていた植物も滅びます。これを契機として次が出ました。

鷲谷いづみ他 1997 マルハナバチ・ハンドブック —野山の花とのパートナーシップを守るために— 文一総合出版 東京

(4) 環境別図鑑

川と呼ばれる環境を源流から河口まで体系的に扱い、植物、昆虫、魚、鳥、獣、貝など上流、下流、河口と区別してそれぞれに見られる種を写真で示しています。

リバーフロント整備センター 1996 フィールド総合図鑑 川の生物 山海道 東京

さあ、市販のフィールド図鑑を、野外識別のためのあなた流の使い易いフィールド図鑑に仕上げましょう。

関東ブロック協議会の報告

1998年2月7日(土)と8日(日)の2日間、狭山市内の市立智光山荘で、埼玉県支部主催の関東ブロック協議会が開催されました。

●関東ブロック協議会とは

関東地区にある日本野鳥の会の支部は、茨城・栃木県・吾妻・埼玉県・千葉県・東京・奥多摩・神奈川の9支部です。この9支部の代表者たちが年に2回くらいのペースで集まり、情報や意見を交換したり、支部間の交流親睦をはかったりするものです。理事や評議員の選出母体としての機能もあります。

主催は各支部持ち回り。埼玉県支部は1991年2月に第12回の協議会を主催しましたが、また順番が回ってきて、第21回の協議会を主催したものです。

●出席者は

本部	飯塚利一(総務部長)
	成末雅恵(研究センター)
茨城支部	山口万寿美(副支部長)
栃木県支部	高松健比古(支部長)
	河地辰彦(副支部長)
	岩淵真由美(事務局)
群馬県支部	浅川千佳夫(本部理事)
	岩田 悟(啓蒙指導委員長)
吾妻支部	(出席なし)
東京支部	門司和夫(副支部長)
	津谷和男(幹事)
	糸嶺篤人(幹事)
	川端一彦(幹事)
	中尾淳一(幹事)
奥多摩支部	桜岡幸治(支部長)
	子松時尚(幹事)
千葉県支部	根本喜一(支部長)
	志村英雄(副支部長)
	村岡幸生(書記局長)
神奈川支部	浜口哲一(支部長)
	石阪丈一(副支部長)

埼玉県支部からは、榎本秀和・海老原教子・海老原美夫・楠見邦博・楠見文子・小荷田行男・小林みどり・高草木泰行・中村榮

男・橋口長和・菱沼一充・福井恒人・藤掛保司、13名の幹事たちが出席して、合計33名でした。松井昭吾支部長がやむを得ない所帯で出席できなかったのは、残念でした。

●会議の内容は

海老原副支部長が議長、藤掛幹事が書記をつとめて、次のような議題と報告事項で話し合いました。

- 1, 野鳥の会の最近の動き。
- 2, 各支部の近況と出席者自己紹介。
- 3, カワウの調査その後。
- 4, 鳥類生息分布調査の意義と調査方法。
- 5, 鳥獣保護法改正の動きと有害鳥獣駆除。
- 6, 輸入証明書の問題。
- 7, 『野鳥』誌の欠刊問題。
- 8, リーダー研修会のあり方。
- 9, 会費制度検討委員会の検討内容。
- 10, 評議員会準備委員会の報告。

今までは、2日目は現地視察などが多く、ほとんど会議は行われなかったのですが、今回は2日目も熱心な議論が交わされました。

●会議以外でも

夜の懇親の席もにぎやかで、千葉・志村、栃木・高松、群馬・浅川3氏の合唱が史上初めて披露され、笑い疲れてしまいました。

次回担当支部は奥多摩支部。今年11月に開催される予定です。



栃木県支部高松支部長の挨拶

残り者に福!

陶山和良 (浦和市)

「雪の中、ご苦労さまでした。足もとがまだ凍りついていますので、気をつけてお帰り下さい」。塩壺温泉のレストランで鳥合せが終わった後の、町田チーフリーダーの心遣いがうれしい。

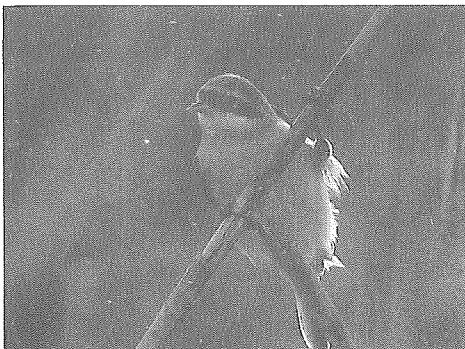
JR中軽井沢駅前に集合したのが、午前8時50分。大雪の天気予報が的中したマイナス5度の銀世界。凍りついた足もとと、サクサク雪を踏み足音が、鳥の声よりも気になる。出現鳥は29種と少なめではあったが、ベニマシコやキクイタダキ、キジのつがい等々に満足顔で、午後2時に解散となった軽井沢探鳥会であった。

食欲な私は、折角温泉に来たのだからと、大枚千円也を払い露天風呂へときめこんだところ、やはり同じ心の探鳥会参加者、坂戸の大塚さんと顔を合わせた。

ご機嫌で湯につかっていると、目の前3mほどの岩陰から、おやおや、ミソサザイが出現。しきりに湿った苔を啄んでいる。

「眼鏡を取ってくるから、逃げないでネ」との大塚さんの願いがかない、今日は出現しなかったミソサザイを、温泉につかりながらゆっくり眺めるという、大満足で最高最高。

暖まった体で駅までの帰り道には、夕陽に照らされた斜面林で、やはり探鳥会では見られなかったアオゲラ、ジョウビタキ、シロハラなどと出会い、合わせてプラス4の、これぞ“残りもの(者)に福あり”の、うれしい探鳥会となった。



(ツリスガラ)

伊豆沼探鳥会に参加しました。

福田昭次 (遺田市)

1月24~25日、一泊二日の宮城県・伊豆沼探鳥会に妻とともに参加しました。

雪原や雪道、凍てついた沼や川と空。予想どおり厳寒での探鳥でしたが、雪原の中で見事な羽をひろげるオオハクチョウ、もやの中、昇り始めた真っ赤な太陽を待っていたかのように、次々とねぐらを飛び出していくマガンの群れにしばし寒さを忘れました。スコープでとらえたカワアイサやオオバンの群れ、とりわけ氷上で休むお目当てのオジロワシ2羽を目にしたときの感動は忘れられません。

このほか数々の小さな野鳥たち。これら野鳥を通じて周辺の自然の豊かさを実感し、併せて自然環境の保全の大切さを痛感した2日間でした。

それに夜の懇親会などでも、いろいろな方と触れ合いを持つことができ、貴重な体験をすることができました。

参加者はリーダーをふくめて25人。伊豆沼探鳥会では初めてのバス利用だそうです。24日朝8時すぎ大宮を出発。雪が舞う東北道を北上、まず最初の観察地、蕪栗沼へ。

雪道を歩き始めてさっそく迎えてくれたのは、農業用水わきの小枝にとまったコバルト色の美しいカワセミ。幸先のいい探鳥のスタートでした。ここでおよそ2時間すごしたあと、伊豆沼へ。ねぐらへ戻るマガンの群れを観察するためです。いつもの年より沼の結氷面が広くて、マガンの数も少ないということでしたが、それでも数組のマガンの“雁行”を堪能できました。

翌朝は5時半起き。再び旅館から数分の伊豆沼へ。今度はマガンたちの飛び立ちを観察するためです。7時ごろから次々と、幾つもの群れがえさを求めて飛び立って行きました。

締めくくりは、内沼から伊豆沼新田観察舎まで5キロ歩いての探鳥。ラッセルしながらの観察でしたが、内沼ではいろいろなカモ類を、また、氷上では白い短い尾をのぞかせたオジロワシ、雪原の田園の杭にはノスリなどの猛禽も観察できました。



狭山丘陵いきものふれあいの里センター

◇11月5日、アオジ。12月5日、ルリビタキ♀1羽。7日、ルリビタキ♂♀各1羽が高い木の上でさえずっていた。キクイタダキ2羽。カシラダカの群れ。9日、シメ、シロハラ♀初認。アオゲラ♂1羽(小林ますみ)。

入間市桜山サイクリングロード ◇11月27日、ルリビタキ♀1羽、ウグイス8羽。

2kmのコースでウグイス8羽の地鳴きは初めて(小林ますみ)。

浦和市霧敷川 ◇12月11日、カワセミ、キセキレイ(陶山和良)。

戸田市道満 ◇12月11日、グリーンパークでオオバン3羽、ユリカモメ1羽。彩湖最北側でアオサギ41羽。12月31日、右岸でハイイロチュウヒ♀1羽。腰の白さが、あまりにも鮮やかで驚く。最北側でミコアイサ♂(陶山和良)。◇1月20日、ミコアイサ♂1羽、オオタカ1羽、ノスリ2羽、シラコバト1羽(島田康行)。

川越市伊佐沼 ◇12月14日、カンムリカイツブリ1羽。ピンクのくちばしがきれいでした(上野倫郎)。

滑川町伊古 ◇12月13日、ノスリ2羽。1羽は、電線にとまっていた(後藤康夫)。

川本町荒川明戸堰上流 ◇12月14日、オオジュリン1羽。ヨシの中でパリパリという音がしているのに気づき、見ると♂が1羽。その回りにカシラダカ数羽が飛び回っていた。



カワセミ(芳川 伸一)

た。ツグミ約20羽、シメ10羽が2~3本の大きな木に混在していた。コハクチョウ40羽。夜は別の場所へ餌を探しに行くのか、私が帰る頃、何羽かずつ戻ってきた。ノスリ2羽、クサシギ2羽(後藤康夫)。◇12月23日、コハクチョウ101羽、マガモ、コガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、トモエガモ♂5羽♀3羽、アオゲラ♂1羽、アカゲラ♀2羽、コゲラ1羽、シメ20羽、オオタカ1羽、ノスリ1羽。両方とも樹上でじっとしてはほとんど動かさず(後藤康夫・喜久子)。◇12月21日、アカゲラ♂3羽♀6羽。白鳥飛来地駐車場からまっすぐ荒川の明戸堰へ出る道の両側の林で午前7時20分から9時頃までアカゲラが飛び回っていた。ハイタカ1羽、トビ1羽、タヒバリ3羽、コハクチョウ110羽、シメ10羽。◇1月25日、コハクチョウ約90羽、オオタカ1羽、トビ1羽、アオサギ8羽(後藤康夫)。

東松山市都幾川稲荷橋周辺 ◇12月17日、バン3羽、イカルチドリ4羽、クサシギ2羽、イソシギ1羽。ノスリ1羽が樹上で羽を休めていた。1本の木に15羽ものキジバトがとまっていた。シメ約80羽、カワラヒワ約80羽。シメ、カワラヒワが河原にて水浴びをされていて、樹上を見てもシメとカワラヒワで占められているような感じだった(後藤康夫)。◇12月20日、ダイサギ5羽、バン4羽、イカルチドリ7羽、クサシギ1羽、イソシギ1羽、カワセミ3羽、シメ10羽、カシラダカ約20羽。(後藤康夫・喜久子)。◇12月28日、ダイサギ13羽、アオサギ2羽、コサギ1羽、アトリ15羽、シメ100羽、カシラダカ約50羽。東松山浄水場横の荒地及び林にシメ、カシラダカ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、アトリが混在していて、私が前進するたびに集団で飛び立つ状態だった(後藤康夫)。

嵐山町菅谷館跡周辺 ◇12月20日、ツグミ約15羽、シメ10羽、カシラダカ約10羽。モズ♂1羽がカブトムシの幼虫らしきものをくわえて木にたたきつけていた。カワセミ1羽(後藤康夫・喜久子)。

所沢市山口 ◇12月27日、自宅上空をツグミ約15羽の群れ3群が通過。1つの群れは、西の狭山湖方面、2つの群れは前後に南の方へ渡って行った(小林ますみ)。

寄居町玉淀湖 ◇1月2日、オシドリ♂♀各3羽。イワツバメ7羽。カモ類に夢中で気づくのに遅れたが、帰りぎわになって上空を飛び回っているのを確認。日本に残留したものだらう。下流方面からヤマセミの鳴き声がしていた(後藤康夫・喜久子)。

本庄市利根川坂東大橋下流 ◇1月3日、ヨシガモ、オカヨシガモ、ミコアイサ、カワアイサ、ウズラ1羽、トビ2羽、ノスリ1羽、チョウゲンボウ3羽、イカルチドリ10羽、イソシギ1羽。コミミズク1羽が、午後3時30分頃、帰りぎわに対岸の草地より飛び立ち15~20m先の草地へ入った(後藤康夫・喜久子)。

浦和市見沼 ◇1月3日、タゲリ30羽、アオサギ、タヒバリ、カワセミ、バン若鳥、アカハラ♂、セグロセキレイ、アオジ、モズ、ゴイサギ、カワウ(大武昭雄・百合子)。

嵐山町槻川二瀬橋 ◇1月4日、ヤマセミ♂♀各1羽、カワセミ4羽。ヤマセミは、槻川橋の上流15m程の川に突き出た木の枝に2羽とまっていた。エナガ1羽、コガラ1羽、シメ30羽、ツグミ20羽、イカルチドリ2羽、クサシギ1羽(後藤康夫)。

岩槻市槻ノ森公園 ◇1月5日、オオタカ1羽。13日、アオゲラ2羽、アカハラ1羽、タヒバリ1羽。オオタカ、タヒバリは当地初認。雪が降ったので、アカハラもやっと来てくれたという感じです(中村榮男)。

所沢市柳瀬川 ◇1月6日、トモエガモ♂1羽、オシドリ♂2羽。キセキレイ(小林ますみ)。



トラフズク(後藤 康夫)

熊谷市三ヶ尻 ◇1月10日、ヒメアマツバメ7羽。先日の降雪で地上は白一色の上空を旋回し、暫し見とれる(山口輝雄)。

吉川市中曽根地区 ◇1月11日、オオタカ1羽、トビ1羽。カラスにモビングされていた。チョウゲンボウ♂♀各2羽、コミミズク1羽。杭の上にとまっているのをじっくりみることができた。タゲリ22羽(山部直喜)。

行田市斎条 ◇1月11日、雪の降った2日後、ナベヅルを見に行った帰り道、星川でシギの姿を発見。近づいてみると、この時期には珍しいコアオアシシギ1羽。スコープをのぞいてみるとクサシギ、イソシギが同じ視野に入ってきて、大きさの比較がよくなった。1月15日、2月8日にも同地で観察できた(鈴木和博)。

吉見町大沼 ◇1月18日、トモエガモ♂1羽♀2羽。大沼北側の護岸整備工事が進んでいた(榎本秀和)。

川越駅南口 ◇1月21日、夕方になるとハクセキレイが群れています。6本のクスノキがあり、そのうちの1本には、200羽位がねぐらをとっているようです(菘輪真澄)。

川越市川越親水公園 ◇2月8日、エナガ4羽(上野英土郎)。

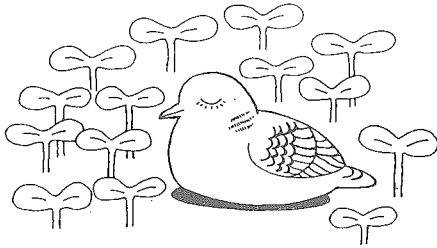
表紙の写真

カラフトワシ(ワシタカ科)

本部のネイチャースクールのツアーに参加して鹿児島県川内市内で撮影してきたのですが、同じ人の写真が多くてはおもしろくないですよ。表紙の写真を送ってくれる人がいなくて困っています。キャビネくらいのサイ

ズのプリント(ビデオプリント可)に、20×10行ほどのコメントを添えて送って下さい。コメントが不得意という方は撮影日時、場所、鳥種名などのデータだけでもOKですから。お願い!! 海老原美夫(浦和市)

行事あんない



(何森 要)

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：3月8日（日）
集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前
交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居9:03
発に乗車
担当：和田、森本、中島（章）、石井
（博）、倉崎、松本、中里、高橋
見どころ：春の訪れと共に冬の鳥達と別れる
時期になりました。今冬は大雪が降っ
たり暖かかったり、めまぐるしい気候
に鳥達もとまどったようですが、元気
に旅をしてまた戻ってきてください。
足元に野の草花も咲いています。大麻
生の早春にお出かけ下さい。

大宮市・梁谷見沼自然公園探鳥会

期日：3月8日（日）
集合：午前8時15分 JR大宮駅東口「こりす
のトトちゃん」像前、または午前9時
15分、見沼自然公園駐車場（さぎ山記
念公園の南西隣）
担当：工藤、楠見、兼元、森、浅見（徹）、
吉岡
見どころ：春の息吹が漂い始めた見沼たん
ぼ。春風が運ぶヒバリの声を聞きなが
ら旅立ち間近の冬鳥達を求めて歩きま
す。ここは本当に豊かな自然が残され
ています。是非お出かけください。

坂戸市・高麗川探鳥会

特別な場合を除いて予約申し込みの必要は
ありません。初めての方も、青い腕章をした
担当者に遠慮なく声をおかけください。私達
もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50
円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ
袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特
に記載のない場合、正午から午後1時頃。小
雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなど
をご利用のうえ、指定の集合場所までおいで
ください。

期日：3月8日（日）
集合：午前9時 東武越生線川角駅前
交通：東武東上線川越8:22→坂戸にて越生線
乗換8:41発、または寄居7:43→小川町
乗継ぎにて坂戸乗換え
担当：高草木、藤掛、石井（幸）、青山、久
保田、志付、増尾、佐藤（壮）
見どころ：初春の川辺にカワセミを追いなが
らアオゲラ、コゲラ、上空に飛来する
チョウゲンボウ、オオタカを探す。何
処に行ったかヤマセミ君。梅の花も盛
りです。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：3月15日（日）
集合：午前8時15分 京浜東北線北浦和駅東
口（集合後バスで現地へ）または午前
9時浦和市立郷土博物館前
後援：浦和市立郷土博物館
担当：楠見、福井、手塚、伊藤、渡辺（周）、
笠原、倉林、若林、岡部、兼元、森
見どころ：ウメ、レンギョウ、モモ、モクレン
が一斉に咲いて三室に春がやってくる。
北へのツグミやカモたち、南から
のツバメと交差する。里の春をゆっく
りと歩きましょう。

秩父市・羊山公園探鳥会

期日：3月21日（土・祝）
集合：午前9時45分 西武鉄道西武秩父駅前

交通：秩父鉄道熊谷8:23発、御花畑9:33下車、徒歩5分で西武秩父駅前に。または西武鉄道所沢8:04発快速急行にて9:14着。現地集合は、公園の入口近くの大駐車場。

担当：海老原、福井、佐久間、小池、岡野、青山、宮崎

見どころ：昨年のスターは20羽ほどで乱舞するキレンジャクたちでした。今年は・・・何もお約束はできません。山の小鳥たちとの出会いは、運次第です。確実に会えるのは、「春」!!

狭山市・人間川定例探鳥会

期日：3月22日（日）

集合：午前9時 西武新宿線狭山市駅西口

交通：西武新宿線本川越8:42発、または所沢8:36発に乗車

担当：長谷部、高草木、藤掛、石井（幸）、小野、中村（祐）、山本、久保田

見どころ：朝夕はまだ一寸寒い日もあるけれど日差しはすっかり春になりました。野に出て春を体感しませんか。ツバメやコチドリと再会、カタクリの花も見られそうです。

長瀨町・宝登山探鳥会

期日：3月22日（日）

集合：午前9時30分 秩父鉄道長瀨駅前

交通：秩父鉄道熊谷8:23発。または西武鉄道所沢7:43発にて秩父鉄道乗り入れ。

担当：小池、佐久間、町田、青山、林（滋）、岡野、井上、堀、堀口

見どころ：雪の多かった秩父地方ですが、鳥達は元気に私達を迎えてくれるはず。山頂までの2時間ほどのハイキング。樹木の新芽に群れる鳥は何か。春の到来を告げる鳥はだれかな。

栃木県・日光東照宮雲山探鳥会

期日：3月28日（土）

集合：午前9時30分 東武日光駅前

交通：東武日光線春日部7:42発（快速）に乗

車、東武日光9:10到着

解散：午後2時頃、現地にて

担当：中島（康）、松井、福井、櫻庭

見どころ：神橋の前から東照宮裏山を滝尾神社まで歩くお馴染みのコースです。カワガラス、ミソサザイが定番です。それに去年はクマタカが出現して大歓声が上がりました。今年は？

「しらこぼと」袋つめの会

とき：3月28日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：3月29日（日）

集合：午前9時30分 県立さきたま資料館前レストハウス

交通：JR高崎線吹上駅北口より、東武バス行田車庫（佐間経由）行き8:55発に乗車、「産業道路」下車、徒歩約15分

担当：内藤、岡安、榎本、和田、立岩、石井（博）、松本、島田

見どころ：桜のつぼみもほころびはじめて人もそわそわ、旅立ちの鳥たちもそわそわ。古墳の周辺をゆっくりと巡りながら、水辺の鳥や上空の猛禽類を追う。心静まる半日にしたいですね。

.....
4月5日（日）・北本市石戸宿定例探鳥会
・浦和市民家園周辺探鳥会



ホオアオカ

行事報告

11月23日(日) 大宮市 染谷見沼自然公園
参加: 49人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ オオバン タシギ キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 前夜来の雨も上がり快晴となったが、北風の強い探鳥会となった。途中、ゴイサギを皆でじっくりと観察する。見沼自然公園の池では、開園以来初認のオオバンが出現し、盛り上げてくれた。

(工藤洋三)

12月14日(日) 所沢市 狭山湖
参加: 18人 天気: 快晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ キンクロハジロ ミコアイサ トビ オオタカ チョウゲンボウ キジバト アオゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ シロハラ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 冬の雑木林では耳が頼り。小さな地鳴きや落ち葉をかきわける音で鳥を探す。アオジやシロハラ、ルリビタキなどの声が聞こえてくる。聞こえてきたが、シロハラもルリビタキも残念ながら見られなかった。一方、狭山湖では、カモの数は少ないもののミコアイサやカイツブリ3種を見ることができた。

(長谷部謙二)

12月21日(日) 浦和市 三室地区
参加: 72人 天気: 晴

カワウ ゴイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ ヒドリガモ ホシハジロ

オオタカ バン イソシギ タシギ セグロカモメ キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 97年最後の探鳥会も参加者72名と大盛況であった。97年は、2、3月に連続してお休みしたが、参加者の多い探鳥会であり、テレビ埼玉の取材、オーストラリアからのアラン・リチャードさんの来会、NHKのふるさとリポーターによる放送と賑やかだった。98年も元気で! (楠見邦博)

12月23日(火、休) 年末講演会
場所: 県民活動総合センター 参加: 95人

大変寒い日にもかかわらず、大勢の会員にお集まりいただいた。まず海老原事務局長より、恒例の「今年の出来事」をビデオにより報告いただく。この一年も、さまざまな支部活動が展開されたことを改めて実感。引き続き講師の蒲谷鶴彦先生が、鳥の鳴き声や海外の探鳥について講演。「鳥の声」をソナグラム(声紋)で見ながらのお話が大変興味深い。その後、1階レストランに場所を移しての懇親会にも35の方が参加され、和やかなうちにお開きとなる。

(榎本秀和)

12月27日(土) 『しらこぼと』袋つめの会
ボランティア: 17人

新井良夫、海老原教子、海老原美夫、尾崎甲四郎、佐久間博文、櫻庭勇、篠原東彦、島田恵司、島田沙織里、志村佐治、中村榮男、藤野富代、増尾隆、増田徹、村松禎夫、百瀬修、森力

1月3日(土、休) 浦和市 さき山記念公園
参加: 49人 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ マルガモ コガモ オナガガモ ホシハジロ オオタカ コジュケイ バン タゲリ キジバト コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒ

ヨドリ モズ ツグミ ウグイス シジュウカラ
 メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュ
 リン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ
 ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 今年
 はツグミが少ないが、ここでは出発早々柿の実に群
 がっていた。いつもの年ならどこでも聞こえるク
 ェックェツの音が懐かしい。年々少なくなってい
 たタゲリは、今年は10羽近くの群れが居ついてい
 る。もう少し南の地点には20羽ほどの別の群れも
 居ついている。ジョウビタキは見当たらない。ち
 ょっと最近の年と様子が違う。オオタカとカラス
 の見事な空中戦を堪能した後は、例年どおり酒や
 料理持ち寄りの野外懇親会。今年も天候に恵まれ
 て、歌は去年よりも更ににぎやか。(海老原美夫)

1月10日(土) 久喜市 菖蒲公園 昭和池

参加: 25人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ マガモ カルガ
 モ コガモ トモエガモ オカヨシガモ ヒドリ
 ガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ
 キンクロハジロ ミコアイサ トビ オオバン
 ユリカモメ セグロカモメ キジバト ハクセキ
 レイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイ
 ス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダ
 カ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ
 ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (35
 種) 前日の大雪のため、地上には残雪があり、そ
 のせいか参加者は25人だったが、スリップの心配
 のないところでは雪の上に踏み跡を付けながらの
 探鳥。お目当てのトモエガモは辛うじて♂1羽を
 発見。運のいい人は見られた。心配したスリップ
 事故もなく無事終了。おまけとしてカモのカウン
 トを一部の方にお願ひして、合計1081羽を記録。
 お疲れ様。(松井昭吾)

1月11日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 36人 天気: 曇

カイツブリ ハジロカイツブリ ミミカイツブリ
 カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ
 アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガ
 モ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キ
 ンクロハジロ ホオジロガモ ミコアイサ カワ
 アイサ トビ ノスリ チュウヒ コチドリ タ
 ゲリ ハマシギ ユリカモメ セグロカモメ オ
 オセグロカモメ シラコバト キジバト カワセ
 ミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タ

ヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ホオジロ カ
 シラダカ オオジュリン カワラヒワ ベニマシ
 コ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス
 ハシブトガラス (48種) 前日まで残っていた雪も
 ほとんど溶け、予定どおり中央エントランスから
 谷中湖を横断して、湖畔東のコースを歩いた。予
 想に反してカモ類の数が非常に少なかったが、終
 わってみれば観察種は48種+参考1種。渡良瀬で
 のトリミはやはり冬がベスト。(新堂克浩)

1月11日(日) 熊谷市 大森生

参加: 31人 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ
 ギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ
 オナガガモ ホシハジロ トビ ノスリ コジュ
 ケイバン オオバン イカルチドリ クサシギ
 イソシギ キジバト ヒバリ ハクセキレイ セ
 グロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ
 ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシ
 ラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ム
 クドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガ
 ラス (39種) 3日前の雪でフィールドは真っ白。足
 元も非常に悪い状況であったが、TVの取材チ
 ームも同行とあって、皆張り切って出発。土手の回り
 に餌をついばむホオジロ、カシラダカ、スズメが
 群れ、かなり間近で観察できた。アカゲラ、ア
 オゲラ、カワセミ等のお目当ての鳥は出なかつたが、
 終わってみれば39種。新年にふさわしい心身共に
 引き締まる一日だった。(和田康男)

1月11日(日) 春日部市 内牧公園

参加: 18人 天気: 曇

コサギ タゲリ シラコバト キジバト コゲラ
 ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバ
 リ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウ
 グイス セッカ シジュウカラ メジロ ホオジ
 ロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ ス
 ズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス、ハシ
 ブトガラス (27種) 開始後間もなく、シメのお出
 ましで、みんなの顔がすっかりほころぶ。そして、
 探鳥会が進むにつれて、次から次へと数多くのツ
 グミを始め冬鳥の出現。締めくくりには、田圃に
 セッカ2羽とさらにタゲリが8羽も飛来。参加者
 全員が十分楽しむことができた。歩道には大雪の
 あとが、まだ沢山残っていたが、本当にすばらし
 い探鳥会だった。(中村榮男)

連絡 中長

●バードソン1998メンバー決定

リーダー橋口長和(春日部市)をはじめ、浅見徹(大宮市)、島田恵司(鴻巣市)、高剋法(上尾市)、計4名のメンバーに、ドライバーとして入山博(春日部市)が加わります。フレッシュな顔ぶれがそろいました。

チーム名は、「しらこぼと・彩の里山探見隊」。中山道周辺の里山再発見をテーマに、5月10日(日)走り回ります。

ご支援をお願いします。

●第3回NTTワールドバードカウント

昨年10月の1ヵ月間開催されましたが、このほど集計がまとまり、88の国と地域から184,376人が参加して、観察された種類数は5,935種にのぼったと、前回(81の国と地域、5,317種)を上回る結果が発表されました。

この結果に基づき、1月20日(火)、NTTからバードライフ・インターナショナル(ロンドン)に、5,935,000円が寄付されました。

●コニカパッケージエイドをよろしく

1996年までの10年間で1,560万円のご寄付が集まりましたが、昨年の11回目は、前回の半数に減ってしまいました。

タンチョウの保護のための貴重な財源です。ご協力をお願いします。

今回は上蓋を切り取らずに、外箱を丸ごとお送りください。1枚につき20円が、コニカから鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリに寄付されます。

なお、業務用や複数の商品をセットしたバック商品は対象外となりますので、ご注意ください。

送り先: 085-1205 北海道阿寒郡鶴居村字中雪裡南 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ (問合わせ: 03-3463-8860)

●近海郵船会員割引が廃止されます

東京釧路間の会員割引が3月末で廃止されて、4月1日乗船分からは割引がなくなりま

す。現在の経済状況からのやむを得ない社の方針ということです。

なお、ブルーハイウェイラインの方のフェリー運賃割引は従来通り続きます。

●NHK川越文化センターの講座

同センター(350-0042 川越市中原町2-2-1、TEL 0492-22-2010)からの依頼により、同市在住の藤掛保司幹事が講師になって、4月から9月まで毎月1回の計6回、バードウォッチング屋外講座が開かれます。

●3月の事務局 土曜と日曜の予定

8日(日) 役員会議。

14日(土) 編集会議、研究部会議。

21日(土) 校正作業。

28日(土) 袋づめの会。

●会員数は

2月2日現在3,043人です。

活動報告

1月10日(土) 関東ブロック協議会の会場下見と打ち合わせ(事務局)。

1月14日(水) 本部の会費制度検討委員会に出席(海老原)。

1月15日(木) 大雪で役員会中止。急ぎの事項につき、全役員に書面連絡(事務局)。

1月17日(土) 編集会議、研究部会議。

1月24日(土)と26日(月) 校正作業(喜多峻次、喜多彌生、海老原美夫)。

1月31日(土) 本部の評議員会準備委員会に出席(海老原)。

編集後記

久しぶりに渡良瀬遊水地に行き、ハイイロチュウヒの乱舞に驚いた。オスが複数飛び回り、地上に降りているのも見える。多いことは喜ばしいけれども、他にいく所がなくなって、ここに集まっているのかも……。そんなことを考えていたら、いつの間にか車が30台も並んでいた。これもやはり他にいくところがないからかな。(山部)

『しらこぼと』1998年3月号(第167号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 松井昭吾 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)